

## がん化学療法レジメン登録票

レジメン名	VRd 3週
診療科名	血液・腫瘍内科
診療科責任者名	末永孝生
適応がん種	多発性骨髄腫
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	MM-13
登録日・更新日	2017年8月22日
削除日	
出典	Lancet. 2017 ;389 :519-527.
入力者	伊勢崎竜也

投与順に記入(抗がん剤のみ)

No.	薬剤名	規格	投与量算出式	ルート	投与時間	施行日
No.1	ベルケイド注射用	3mg	1.3mg/m <sup>2</sup>	□IV □DIV □IVHポート □側管 ■その他(皮下注)	-	day1,4,8,11
	生理食塩液	20mL				
No.2	レプラミドカプセル	5mg	25mg/body	□IV □DIV □IVHポート □側管 ■その他(内服)	1回/日	day1-14
No.3	レナデックス錠	4mg	20mg/body	□IV □DIV □IVHポート □側管 ■その他(内服)	1回/日	day1,2,4,5,8,9,11,12

1コースの期間	21日
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能( ) ・ <input checked="" type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	-
計算後の投与量下限値	-

減量・中止基準	<p>【開始基準】</p> <p>・好中球数<math>\geq 1,000/\text{mm}^3</math>、血小板数<math>\geq 50,000/\text{mm}^3</math>、Hb<math>\geq 9.0 \text{ g/dL}</math>、非血液毒性：ベースライン又はGrade1以下に回復</p> <p>【休薬・減量・中止基準】</p> <p>休薬・減量・中止基準はIRDレジメンに準拠する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>副作用</th> <th>程度</th> <th>処置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">血小板減少症</td> <td>血小板数<math>30,000/\text{mm}^3</math>未満</td> <td>30,000/<math>\text{mm}^3</math>以上に回復するまで、休薬する。 回復後、同一用量で投与を再開できる。 再び30,000/<math>\text{mm}^3</math>未満に減少した場合は、30,000/<math>\text{mm}^3</math>以上に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。</td> </tr> <tr> <td>好中球減少症</td> <td>好中球数500/<math>\text{mm}^3</math>未満</td> <td>500/<math>\text{mm}^3</math>以上に回復するまで、休薬する。 回復後、同一用量で投与を再開できる。 再び500/<math>\text{mm}^3</math>未満に減少した場合は、500/<math>\text{mm}^3</math>以上に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">皮膚障害</td> <td>Grade 2</td> <td>対症療法を行い、投与を継続できる。 忍容できない場合は、下記「Grade 3」参照。</td> </tr> <tr> <td>Grade 3</td> <td>Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。</td> </tr> <tr> <td>Grade 4</td> <td>投与を中止する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">末梢神経障害</td> <td>疼痛を伴う Grade 1又は疼痛を伴わない Grade 2</td> <td>ベースライン又は疼痛を伴わない Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、同一用量で投与を再開できる。</td> </tr> <tr> <td>疼痛を伴う Grade 2又は Grade 3</td> <td>Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">上記以外の副作用</td> <td>Grade 3の非血液毒性</td> <td>ベースライン又は Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。</td> </tr> <tr> <td>Grade 4の非血液毒性</td> <td>投与を中止する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>Grade は NCI-CTCAE v4.0 に基づく</p> <p>◆ベルケイドの減量目安                  開始用量：1.3mg/m<sup>2</sup>                  ステップ1(1段階減量)：1.0mg/m<sup>2</sup>                  ステップ2(2段階減量)：0.7mg/m<sup>2</sup>                  ステップ3：投与中止</p> <p>◆レナリドミドの用量調節の目安                  - 25 mg                  1段階目 15 mg                  2段階目 10 mg                  3段階目 5 mg                  4段階目 中止</p> <p>◆デキサメタゾンの用量調節の目安                  - 20mg                  1段階目 12mg                  2段階目 4mg                  3段階目 中止</p>	副作用	程度	処置	血小板減少症	血小板数 $30,000/\text{mm}^3$ 未満	30,000/ $\text{mm}^3$ 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、同一用量で投与を再開できる。 再び30,000/ $\text{mm}^3$ 未満に減少した場合は、30,000/ $\text{mm}^3$ 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。	好中球減少症	好中球数500/ $\text{mm}^3$ 未満	500/ $\text{mm}^3$ 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、同一用量で投与を再開できる。 再び500/ $\text{mm}^3$ 未満に減少した場合は、500/ $\text{mm}^3$ 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。	皮膚障害	Grade 2	対症療法を行い、投与を継続できる。 忍容できない場合は、下記「Grade 3」参照。	Grade 3	Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。	Grade 4	投与を中止する。	末梢神経障害	疼痛を伴う Grade 1又は疼痛を伴わない Grade 2	ベースライン又は疼痛を伴わない Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、同一用量で投与を再開できる。	疼痛を伴う Grade 2又は Grade 3	Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。	上記以外の副作用	Grade 3の非血液毒性	ベースライン又は Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。	Grade 4の非血液毒性	投与を中止する。
	副作用	程度	処置																								
血小板減少症	血小板数 $30,000/\text{mm}^3$ 未満	30,000/ $\text{mm}^3$ 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、同一用量で投与を再開できる。 再び30,000/ $\text{mm}^3$ 未満に減少した場合は、30,000/ $\text{mm}^3$ 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。																									
	好中球減少症	好中球数500/ $\text{mm}^3$ 未満	500/ $\text{mm}^3$ 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、同一用量で投与を再開できる。 再び500/ $\text{mm}^3$ 未満に減少した場合は、500/ $\text{mm}^3$ 以上に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。																								
皮膚障害	Grade 2	対症療法を行い、投与を継続できる。 忍容できない場合は、下記「Grade 3」参照。																									
	Grade 3	Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。																									
	Grade 4	投与を中止する。																									
末梢神経障害	疼痛を伴う Grade 1又は疼痛を伴わない Grade 2	ベースライン又は疼痛を伴わない Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、同一用量で投与を再開できる。																									
	疼痛を伴う Grade 2又は Grade 3	Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。																									
上記以外の副作用	Grade 3の非血液毒性	ベースライン又は Grade 1以下に回復するまで、休薬する。 回復後、1段階減量して投与を再開できる。																									
	Grade 4の非血液毒性	投与を中止する。																									
前投薬																											
その他の注意事項	<p>・レナリドミド投与期間中は、深部静脈血栓症予防のアスピリン、抗凝固薬等を投与する。</p> <p>・帯状疱疹の予防として、アシクロビル又はバラシクロビルおよび抗生剤(ST合剤等)を投与してもよい。</p> <p>・自家造血幹細胞移植を考慮する症例の場合は通常2コース以内とする。</p>																										

記入者	伊勢崎竜也
確認者	竹内 正美